

























奄美市指定文化財
有盛神社境内の森林
(天然記念物)

有盛神社が所在するこの小山一帯は、壱ノ瀬の合戦で敗走した平家の武将の一人、平有盛が居城を構えたと伝えられる場所です。

境内地区の広大な平野部分に舌状に突出するこの小山一帯には、リュウキュウマツの巨木をはじめとして、リュウキュウエノキ、ハマイヌビワ、フカノキ、カクレミノ、ヌルツ、シマウリノキ、ヤエヤマネコノチヂ、ヒサカキ、ヤブツバキ、シメイタビ、グットウ、ガジュマル、アコウ等による亜熱帯特有の森林がよく保存されています。

また巨木以外にも、カラスキバサンキライ、アリモリソウ、クマタケラン等の低木や草花などが認められるほか、リュウキュウマツの巨木にはポーランやツクシノキノコ等の発生も認められます。

住居地に近接した環境にありながら、奄美大島特有の多様な植物相がよく保存されている貴重な場所であることから、昭和47年3月2日に名瀬市指定文化財に指定され、現在に至ります。

この一帯で、奄美市教育委員会の許可を得ることなく、勝手に森林伐採する行為、あるいは工事等を実施することなどは、奄美市文化財保護条例で禁じられています。学術研究や工事等で植物の採取・伐採を必要とする場合は、奄美市教育委員会(0997-54-1210)にご相談ください。

奄美市教育委員会



















奄美市指定文化財
有盛神社の石造弁才天像
(有形文化財・彫刻)

奄美大島には、^{だんのうら}壇ノ浦の合戦で敗れた平家の落人たちにまつわる伝承が各地に残されています。喜界島から奄美大島にたどりついた平家の行盛・有盛・資盛の三武将は、北部に行盛が、中部に有盛が、加計呂麻島に資盛が城を構えたと伝えられています。

有盛神社が所在するこの小山一帯が、有盛が^{きよじょう}居城を構えたと伝えられる場所で、小字地名も「有盛」と呼ばれています。実際、この小山一帯には、中世山城によく似た構造物が構築されています。

また有盛神社上側の尾根には、文化(1816)年の銘文が刻まれている有盛の^{いり}祠が建てられています。この小山には、「テラ」という別称もあり、有盛墓碑が建てられている場所を「ウンテラ」、有盛神社が建てられている場所を「サンテラ」と呼びます。かつては、ノロ祭祀の祭場として用いられていました。

有盛神社には、弁才天像が奉られています。弁才天像の裏面には、^{ほうすい}宝永8(1711)年、薩摩藩士の田代清方が、^{しんかいへい}四海泰平、^{くんしんあんぜん}君臣安全、^{しよがんにようじゆ}諸願成就を祈念して安置したと銘文が刻まれています。奄美の歴史や宗教を解明する資料なることから、昭和47年3月2日に名瀬市指定文化財に指定され、現在に至ります。

奄美市教育委員会

































有屋ノ口のトネヤ跡

ここが有屋のトネヤ跡である。昔は有屋と言え
 ば、此の地帯は、名流の出入りとなり、有屋の石
 敷、有屋の初砂敷の三丁橋下りし等の地帯である
 大正時代から昭和の初め頃まではノ口も現在して
 いて、粗いもさした、折々の時等に、折れてい
 である。また、この地帯にはノ口に結わる子リ田
 子リ田の跡も残っており、また、ノ口の跡の跡に行き
 の跡も残っており、また、このトネヤの跡に流れる川で、
 その跡も残している。

(社) 美七島亭 年々 議所

























